

## 彙報 (令和四年度)

身延山大学国際日蓮学研究所は令和四年度において以下の活動を行った。

### ○令和四年度 国際日蓮学研究所例会

令和五年一月二五日(水)

鎌倉幕府黎明期と日蓮聖人

木村中一 国際日蓮学研究所主任(身延山大学教授)

### ○第七四回日蓮宗教学研究発表大会

第七四回日蓮宗教学研究発表大会が令和四年一月四日(金)から五日(土)にかけて、日蓮宗宗務院にて開催された。

### ○大会役員

顧問 身延山学園理事長 身延山大学長 持田貫宣

副会長 身延山大学仏教学部長 池上要靖

副会長 身延山大学国際日蓮学研究所長 望月海慧

【個人発表】(当研究所関係者のみ)

・「日叙著『御書録内綱目』の編纂について」

・「流支訳より見たる法華論の変遷について」

・「伊藤瑞叡博士の法華経論の意義」

・「教菩薩法仏所護念」考

・「ルアンパン地区寺院仏像群の形態的分類試論」

木村中一

金 炳坤

岡田行弘

望月海慧

池上要靖

・「日蓮聖人の甲斐国巡教について」  
望月真澄  
・「日蓮聖人における「一大事の教え」」  
庵谷行亨  
○ラオス世界遺産修復プロジェクト

ラオス人民民主共和国ルアンパバン世界遺産地域にて活動している本プロジェクトについて、令和四年度は令和五年二月一七日～三月一日の日程で第二五回となる現地活動を行った(日本側一一名、ラオス側二二名)。本事業は令和二年二月の第二二回事業実地以降、世界的なコロナ禍を受け現地渡航を断念せざるを得ない状況にあったが、令和四年一〇月一九日付で日本国外務省が「感染症危険情報」を見直し「レベル1」としたことにより、本事業の現地渡航による実施を再開した。本年度の活動としては(1)仏像修復および修復技術者育成。(2)仏像安置状況および盗難仏像調査。(3)仏像三次元測定調査および測定方法指導。(4)修復材料および伝統技法調査。(5)現地関係諸機関(国立王宮博物館、県情報文化観光省観光局、情報文化観光省遺産局)への訪問や打ち合わせなどを行なった。また本事業に対しアハム村村長から、ラオスの旧正月の祭事に使用する「プー・ニューニャー・ニュー」の衣装保存に関する寄付を打診され、三月二日にワット・アハムにて寄進を行った。なお今般の本事業はラオス国営放送より取材を受け、三月七日放送のニュース番組で活動が紹介された。

○国際日蓮学研究所役職員（令和四年度）

顧問

岩田諦靜、庵谷行亨、岡田行弘、岡田真水、  
加賀美尤祥、北村愛子、武見敬三、長澤市郎、  
浜島典彦、宮川了篤、山田英美、渡邊寶陽、  
藤井教公、中尾 堯

所長

望月海慧

主任

木村中一

副主任

岡田文弘

庶務

池田健太郎

（事務局）

所員

池上要靖、伊東久実、岡田文弘、金 炳坤、  
木村中一、望月海慧、望月真澄、桑名法晃、  
桑名貫正、小谷みどり、庄司史生、鈴木隆泰、  
田淵和子、都守基一、寺尾英智、長又高夫、  
榎木博之、名和隆乾、福士慈稔、三輪是法、  
柳本伊左雄、吉田永正、Jacqueline Ilyse Stone、  
Jonathan Alan Silk、金 天鶴、Lucia Dora Dolce、  
間宮啓壬、高橋賢充、田沼朗、上田尚教

客員所員

木村良勢、佐々木さち子、鈴木 稔、手塚知子、  
建守善之、富山美由紀、中井本勝、中野宏子、  
西、康友、林 是恭、榎殿伴子、村瀬正光、  
望月香代、依田郁乃、Giglio Emanuele Davide、  
Jill Emma Strothman、諏訪是隆、高田知仁

研究生

池田優季名、岡村達人、鈴木義孝、深沢葉子、  
森田信宏、依田 司、池内恵海、岡村明子、永利 徹

○研究所員による海外研究発表・講演など

（主要仏教関係のみ）

・令和四年七月五日

望月海慧：“On the sādhana works of Dipankarasiṃhāna.”  
（チェコ共和国、プラハ・カレル大学／第一六回国際チベット学  
会）

・令和四年八月一八日

望月海慧：“The esoteric Rituals on the Death and Rebirth  
Attributed to Dipankarasiṃhāna.”（大韓民国、ソウル大学／第  
一九回国際仏教学会、オンライン開催）

・令和五年三月一九日

岡田文弘：“「虚構」そして「想像的」なるもの：文学としての  
大乘（Both “Imaginary” and “Imaginative” : Mahāyāna as  
Literature）」（アメリカ合衆国、ハーバード大学／Expanding  
the Range of Japanese Buddhist/Religious Studies）

○研究所学術交流・学術交流

本研究所では現在、大韓民国東国大学校仏教文化研究院及び大  
韓民国金剛大学校仏教文化研究所、大韓民国高麗大蔵経研究所と  
学術交流を行っている。令和四年度は大韓民国東国大学校仏教学  
術院編『韓国仏教全書 第十五冊 補遺篇五』が本研究所に寄贈  
され、東国大学校と本研究所の学術交流が進むこととなった。

また岡田文弘副主任は日蓮宗より助成を受けてアメリカ合衆国  
ハーバード大学に研究員として短期派遣が命ぜられた。この派遣  
期間中の令和五年三月一九日、岡田副主任はハーバード大学ライ

シャワー日本研究所を訪問し、同研究所の阿部龍一教授との面会、および現地でのシンポジウム「Expanding the Range of Japanese Buddhist / Religious Studies」に参加しての発表を行ない、同研究所と本研究所の学術交流を進める一助とした。

これら海外研究所との学術交流に加え、中央学術研究所学術研究室主幹の西 康友氏（本研究員）による「令和三年度国際日蓮学研究所例会」における発表「梵文法華経の文献学的実証研究―仏典の原典を解読する意義―」を基とする論文「梵文法華経写本における文献学的実証研究の推進―仏典の原典を解読する意義―」を『日蓮学』第六号に掲載した。これを端緒として、中央学術研究所と国際日蓮学研究所の学術交流を進めていくこととした。